

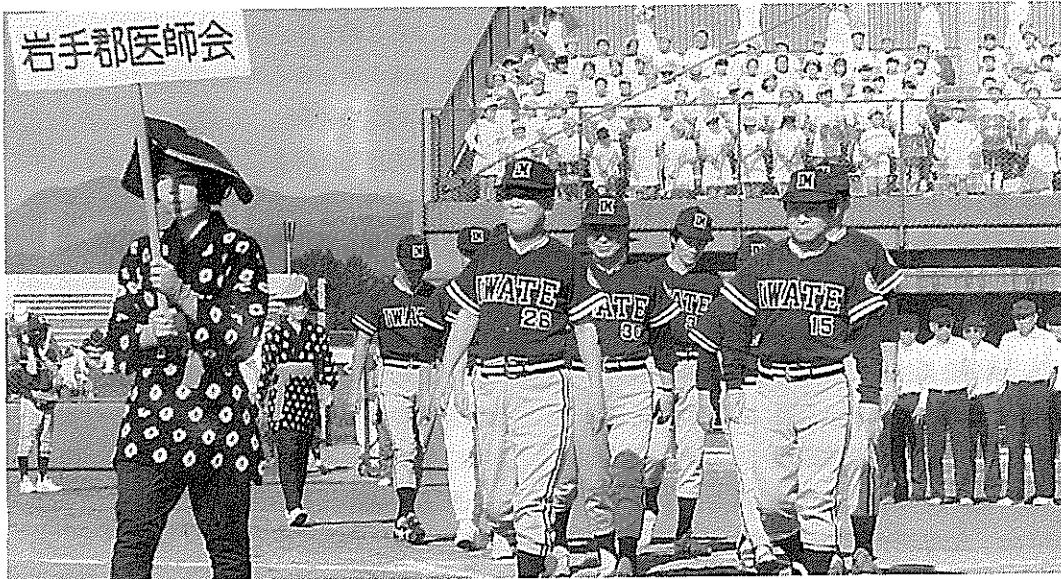
# 岩手郡医報

平成3年9月 No.34

編集 発行

岩手郡医師会

題字 零石町高橋孝先生



堂々の入場行進をする岩手郡チーム

第43回岩手県医師会親睦野球大会は、雲一つない好天に恵まれた平成3年8月25日(日)に岩手郡医師会の担当で、零石町営球場において開催された。昨年の久慈大会が終わったあとから準備作業が開始され、県内より集まった野球好きドクター約390名の参加により、零石町内9会場を使用して開始された。岩手郡チームは、1回戦県立中央病院Bチームを打棒大いに振る、6-3で勝ち、2回戦では優勝した釜石チームに善戦したが及ばず、3-10で敗退した。

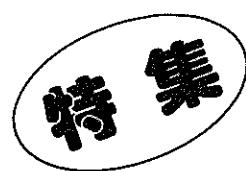
来年は、二戸医師会の担当で平成4年8月23日、二戸市で開催される。

会員各位の御協力及び薬問屋（小田島、サンエス、エーシンの三社）の御援助に対して心から感謝します。

（岩手郡医師会会長 高橋牧之介）

## 目 次

堂々の入場行進をする岩手郡チーム	1	プレーボールまで 零石町上原充郎	9～11
第43回県医師会親睦野球大会大会次第		県医野球大会裏方観戦記 零石町谷藤一生	11
永年出場表彰選手	2	御礼の挨拶 郡医師会長高橋牧之介	12
会場選定の経緯、開会式	3	郡医師会理事会兼県医野球大会実行委員会	12
試合開始	4	岩手郡医師会理事会	13
岩手郡チームの戦績 葛巻町近藤純造	5～6	おらほの先生 西根町瓜田医院の巻	14
表彰式並びに懇親会、成績	7	随想 たばこ 零石町高橋孝	15
地元での県医野球大会開催まで		編集後記	16
零石町高橋孝	8		



## 第43回 県医師会親睦野球大会 零石町で開催(担当岩手郡医師会)

### 大 会 次 第

- 1 開会式並びに永年出場選手表彰式（午前8時）
  - (1) 役員・選手団入場
  - (2) 開会の辞  
岩手郡医師会副会長 佐 藤 郁 郎
  - (3) 国旗並びに会旗掲揚
  - (4) 大会会長挨拶  
岩手県医師会会長 加 藤 十 郎
  - (5) 優勝旗・準優勝旗返還
  - (6) 大会実行委員長挨拶  
岩手郡医師会会長 高 橋 牧之介
  - (7) 来賓祝辞  
零石町長 川 口 民 一
  - (8) 選手宣誓  
岩手郡医師会理事 嶋 信
  - (9) 永年出場選手表彰式

日 時：平成3年8月25日 (日) 午前8時

場 所：零石町宮球場ほか

司 会：関 敬 一

(10) 次期開催地医師会会長挨拶

二戸医師会会长 菅 原 光 夫

(11) 審判部長挨拶

零石野球協会審判部長 南 黒 沢 実

(12) 諸事連絡

岩手郡医師会副会長 高 橋 孝

(13) 閉会の辞

岩手郡医師会副会長 上 田 靖 彦

(14) 役員・選手団退場

2 試合開始（午前9時）

始球式（零石町宮球場）

岩手県医師会会長 加 藤 十 郎

3 表彰式並びに懇親会

つなぎ温泉 ホテル大観

### 第43回 岩手県医師会親睦野球大会永年出場表彰選手

#### ◇ 10 年 選 手

城戸正美（紫波郡医師会）今野譲二・板倉康太郎（北上医師会）佐藤宏（一関市医師会）黒沢照男（東磐井郡医師会）

#### ◇ 20 年 選 手

高橋暢・斎藤裕（紫波郡医師会）村谷力（北上医師会）遠藤泰男（一関市医師会）山崎豪男（気仙医師会）遠藤五郎（二戸医師会）

#### ◇ 25 年 選 手

石川育成・石井隆（盛岡市医師会）

#### ◇ 30 年 選 手

安部彦司（北上医師会）宮本耕佑（遠野市医師会）

#### ◇ 35 年 選 手

工藤次郎・中島彰（盛岡市医師会）斎藤博（一関市医師会）中村好和（釜石医師会）川村弘二（久慈医師会）

### 【会場選定】

だんだん迫ってくる県医師会親睦野球大会も8月に入ってようやく“梅雨明け”宣言が出るという今年は、例年に比べ雨の多い冷たい夏である。この大会の時期になると、例年まだ残暑厳しい夏なのであるが、今回の野球大会を控えて気になる毎日の天候である。岩手郡の担当と決まってから、数回にわたる役員会によってそれぞれの準備が始まった。まず会場として選ばれたのが、過去昭和42年の第19回大会、昭和52年の第29回大会と2度の開催を経験している零石町が選ばれた。広い岩手郡内でも以前に比べ参加チーム数も増えて、8~9ヶ所の会場を確保できるのはここにおいて他はないようである。でも最近は各町村においても総合運動公園が作られており、徐々にメイン会場となる野球場も出来つつあるが、やはり町内に多数ある小、中学校、高校のグラウンドを借りなければ1日での消化は無理となって来つつある。

今大会のメイン会場となったここ零石町営球場は、夏の高校野球県大会の会場ともなるところもあり、両翼91.5m、中堅まで120mの外野は芝生であり、とても見晴らしのよい立派な球場である。外野フェンスにはラバークッションもとりつけられて、プロ野球の試合も可能とのこと。

会場の次は、入浴場、懇親会場の選定であるが、これについては零石町内には鶯宿温泉がある。でも山あいの温泉場でもあり、駐車場の確保がむずかしく、また約400名収容できる会場の選定が困難であり、近隣のつなぎ温泉「ホテル大観」が選ばれた。ここは以前（昭和60年盛岡市医師会担当）にも使用されており、最近の様に各チームともマイカーというよりはマイクロバスでの移動がふえたこともあってやはり広い駐車場が要求されるようになった。

### 【開会式】

朝の受付では、予め参加予定の宮古医師会は選手が揃わず不参加申し込みがあり、初戦相手の盛岡市Cは不戦勝となった。選手が登場するまでの間、球場の1塁側スタンド前付近で、地元零石町上町内会（小・中学生の子供会も含めて）有志による「零石さんさ踊り」を披露して、スタンドに集まつた地元の野球ファンにも開会を盛り上げるのに一役買っていた。開会式の予定時間（午前8時）になってもなかなか各郡医師会の選手が参集せず、係をやきもきさせたが、予定通り数発のノロシを合図に一塁側入口より選手団の入場行進が始まった。総勢約390名の登録である。

地元零石町関敬一氏の司会により、選手入場のときチーム紹介がなされ、このコメントの中には数チームに、「悲願の優勝を」とか、「優勝めざして練習に励んできた。」とか、優勝ということばがやたらと目についた。佐藤郁郎岩手郡医師会副会長より開会が宣言されたあと、選手及びスタンドの観客が見守る中、国旗並びに大会旗が球場センターポールに掲揚され、そのあとセンターバックスクリーン前により数羽の鳩が放たれて、大会会長加藤十郎県医師会長より、好天に恵まれ絶好のコンディションのもと開催されたこの大会の準備に苦労された岩手郡医師会に対して労いの言葉をいただいたあと、「日頃の診療を忘れ、今日一日ケガのないよう頑張ってください。御健闘を御祈りします。」と挨拶があった。



開会式で先導をつとめた零石中生

次いで昨年の久慈大会での優勝チーム県立中央病院A鈴木博士将及び準優勝の釜石工藤純孝監督より、それぞれ優勝旗、準優勝旗が返還された。また、高橋牧之介岩手郡医師会長の大会実行委員長挨拶では「水といで湯と空気のきれいな山紫水明の町、零石にようことおいで下さいました。できるだけ長い時間岩手郡に留まつていただき、このおいしい、さわやかな空気を味わつていただきたい。そして惜しくも緒戦で敗退されたチームは、敗者親善試合にも参加してそのあと懇親会（午前11時30分より）に参加していただきたいと思います。」と歓迎の挨拶をされた。また来賓挨拶として地元零石川口民一町長も大会実行委員長の言葉に補足して地元零石町をPRしたのち、「1993年世界アルペンの開催にむけ準備中であり、皆様の御支援をよろしくお願ひします。」と訴えていた。

地元零石町からの協力により、開会式では小学生（零石小5、6年生170名）による鼓笛隊の演奏、女子中学生（零石中）による“零石あねっこ”姿での入場行進先導隊など、また1993年世界アルペンの開催地でもある零石町は、町内のいろいろのイベントに世界アルペンコンパニオンがコマーシャルとして登場しており、今回も開会式に色彩りを添えていた。そして県医師会長に「ようこそ零石町へいらっしゃいました。」と花束を贈呈して歓迎の意を表し、このとき一緒に登場したのが、「ケンタとミミ」（ぬいぐるみ）であり、選手に愛嬌をふりまいて退場した。

選手宣誓では地元を代表して郡医師会理事で野球チーム主将の嶋信が「県内より集まった野球好きドクターの情熱と心意気を遺憾なく発揮し、親睦の実を挙げ、ケガのないよう試合することを誓います。」と自宅で練習した成果がうまく言えたか？、また声がはっきり聞こえただろうかと心配しながらも、選ばれ

た責任の一端を終えて一安心する間もなく、



選手宣誓する嶋選手

例年永年出場選手表彰式での時間のかかり過ぎという批判を出来るだけ短縮するようになった開会式でもあり、次期開催地の二戸医師会菅原光夫会長の「来年は野球の盛んな町、甲子園出場10回の県立福岡高校のある二戸市福岡町内を主会場として、平成4年8月23日を予定しており、体調を整えられ、皆様多数の参加を心からお待ちしております。」旨の挨拶があり、また統いて地元野球協会審判部長南黒沢実氏より「大会運営要項に則り試合を行いますが、ケガをして医師が（患者となって）医師にかかるないように十分注意してください。」といえば（場内爆笑）、その後高橋孝岩手郡医師会副会長の諸事連絡、最後は上田靖彦岩手郡医師会副会長の閉会の辞をもって、開会式のセレモニーは終了。

#### 【試合開始】

いよいよ試合開始である。それぞれ第1回戦の会場8ヶ所へと散った。各会場にはこの大会のため協力、支援してくれた（株）小田島、（株）サンエス、（株）エーシンの皆さんが数人ずつグランドの周囲で、或いは飲物の接待にと活躍してくれた。惜しみない援助に感謝の気持ちで一杯です。

各会場から試合の途中経過とか、準備の状況など逐次大会本部（零石町営球場）へは無線で連絡が入った。こんな中で地元岩手郡（先発メンバー平均年令45.5才）は、1回戦を県

立中央病院Bと対戦し、6-3で勝ちとり、2回戦の相手は今大会の優勝チーム釜石と前半2回表を終わって途中経過が3-1で岩手郡リードという大会本部への報告が入ってきたときには、本部にいる郡医師会関係者はびっくりしたという。というのも昨年の久慈大会でも2回戦で対戦して大差で敗けており、十分手の内は知られており、相手はエースを温存しての対戦で、初戦を投げぬいた我が医師会の土谷投手は、2回の裏2死より突然投球のリズムを狂わせ9点を奪われ、結局3-10であえなく敗退した。でも2回の表（岩手郡の攻撃）

で、ランナー2・3塁により、尚追加点のチャンスを迎えたところでエース豊田一小泉のバッテリーに変えて来た。それから岩手郡の攻撃はピタリと抑えられてしまい、その裏の味方の奮起を呼んだあたりはさすがであった。このときが勝負の分かれ目であったと釜石はあとから述懐していた。

今大会1回戦の花巻市Bと東磐井戦及び準決勝県立中央病院Aと花巻市A戦で、同点でジャンケンによる勝者決定戦があり、両チーム明暗を分けた。

（文責 嶋 信）

尚、いわて医報にも掲載します。

## 岩手郡チームの戦績

葛巻町 近 藤 純 造

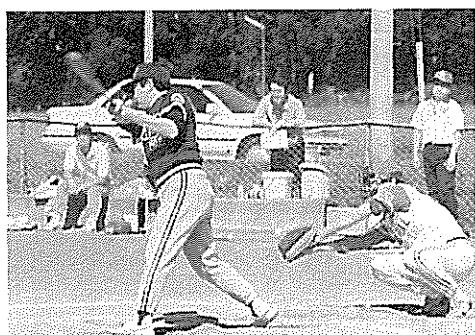
第1戦は稀にみる好天のもと、町営鷲宿グランドBに於いて県立中央病院Bチームを相手に午前9時20分に開始され、6対3で勝利を収めた。

	1	2	3	計
岩手郡医師会	1	0	5	6
県立中央病院B	0	0	3	3

岩手郡チーム	県立病院Bチーム
1 (三) 嶋	1 (左) 遠野
2 (遊) 岡田	2 (三) 熊谷
3 (左) 篠村	3 (中) 石川
4 (投) 土谷	4 (一) 下村
5 (右) 及川	5 (投) 佐々木
6 (捕) 奈良坂	6 (捕) 高田
7 (中) 伊藤	7 (遊) 木村
8 (一) 高橋(克)	8 (二) 野崎
9 (二) 西島	9 (右) 三浦

(試合経過を詳しく記録した便箋をベンチに置き忘れて来たと思われますので試合の感想にとどめます事を御許し下さい)

1回表に1点を先取した我がチームは、土谷投手の立ち上がりも順調で、内外野共に守りが堅く得点を許さず、3回表には打棒が爆発し大量5点を入れ、勝負あったかに見えた。しかしその裏土谷投手が突然コントロールを乱し四球を連発するなどあって3点返されたが、気力で踏ん張り最後のバッターを三振に討ち取り、時間切れで勝利を物にした。我がチームとしては未だかつて無かったノーエラーの試合で、内野守備では高橋一塁手が難しい送球を再三好捕して相手のチャンスの芽をもぎとってくれたのが光った。それから雲



高橋(克)選手のタイムリーヒット  
(対県立中央病院B戦)

ひとつ無い青空に舞い上がった飛球は実に捕球し難いものであるが、我がチームの外野手は完璧に捕球し、特にセンターの難飛球を好捕した伊藤中堅手が土谷投手に好返球し、土谷投手の捕手への三塁からの走者をアウトにしたダブル・プレイは特に印象に残った。巨人の弱体外野陣に見せたいプレイであった。打線も大いに振るい、中でも西島選手の右翼線を狙った好打が特に光った試合であった。

続く第2戦は優勝候補N.O.1と目される釜石医師会との対戦で、午前10時20分試合開始となり当初は優勢に試合を進め、敵を大分慌てさせたが力及ばず敗れた。第1戦で勝ち、心地よい疲労もあったが、第2戦も同じ先発メンバーでのぞんだ。

	1	2	計
岩手郡医師会	0	3	3
釜石医師会	1	9	10

両チームのメンバーは

岩手郡チーム	釜石チーム
1 (三) 嶋	1 (中) 村上
2 (遊)(投) 岡田	2 (左) 上村
3 (左) 篠村	3 (三) 紺野
4 (投)(遊) 土谷	4 (一)(投) 豊田
5 (右) 及川	5 (右) 下沖
6 (捕) 奈良坂	6 (二) 谷村
(一) 上原	7 (遊) 川上
7 (中) 伊藤	8 (投)(一) 堀
8 (一)(捕) 高橋(克)	9 (捕) 加賀谷
9 (二) 西島	(捕) 小泉

1回表 (岩手郡チーム) : 嶋三ゴロ、岡田三飛、篠村左前安打で出塁したが土谷三ゴロ (得点0)

1回裏 (釜石チーム) : 村上中飛、上村四球で出塁し二盗、捕逸もあって三進、紺野三邪飛、豊田遊ゴロを一塁悪送球の間に上村生還、下沖二飛 (得点1)

2回表 (岩手郡チーム) : 及川左前安打し二

盗、奈良坂左越二塁打で及川生還、伊藤三ゴロ、高橋(克)死球、西島右翼線を破る二塁打で奈良坂生還、続く嶋が打者の時形勢不利と見た敵は投手を交替し、遂にエースの豊田をマウンドに送って防戦に努めた。併し嶋は剛球を物ともせず左前安打し高橋生還、岡田もよく四球を選び出塁したが、篠村捕飛、土谷三振で二者残塁し追加点の好機を逸した (得点3)

2回裏 (釜石チーム) : 谷村左横二塁打後、堀三ゴロで二死、加賀谷の当たりは三ゴロとなり、この回も無得点で切り抜けられると思ったが、三進していた走者の谷村を本塁でアウトにしようとした嶋の投球がそれ、生還を許した。このプレイで奈良坂捕手が負傷退場し、捕手高橋、一塁上原となった。この思わぬアクシデントを境に情勢は一転した。健投を続けていた土谷投手も流石に疲労が出て来たのかコントロールが定まらなく暴投が目立ち、三進していた加賀谷が暴投で生還、村上四球後二盗、三盗し、上村の右前安打で生還し、紺野左前安打、暴投が続く間に上村も生還、豊田の三ゴロを一塁に悪送球し、下沖打者の時又暴投が出て紺野、豊田と相次いで生還、ここで土谷に替わって岡田がマウンドに上がった。下沖は結局四球で出塁、谷村の三飛を嶋と土谷が譲り合う格好となり、更に川上の左横安打を大きくはじく間に二者生還、更に川上も捕逸で生還、堀三振でこの回実に大量9点を奪われ、やっと長い長い守りが終わり時間切れで敗れた (得点9)



西島選手の二塁打で2点目のホームを  
ふむ奈良坂選手(対釜石戦)

## [表彰式並びに懇親会]

1. 開会の辞  
岩手郡医師会副会長 佐藤 郁郎
2. 会長挨拶  
岩手県医師会会长 加藤 十郎
3. 歓迎のことば  
岩手郡医師会会长 高橋 牧之介
4. 成績発表  
岩手県医師会常任理事 宍戸 凰悦

- 司会 岩手郡医師会理事 及川忠人
5. 表彰式 優勝旗授与  
準優勝旗授与
6. 審判長講評  
零石野球協会審判部長 南黒沢 実
7. 懇親会
8. 閉会の辞  
岩手郡医師会副会長 高橋 孝

戦い終わって各選手は、ホテル大観の“牛若の湯”で一風呂浴びたのち懇親会場へと赴いた。会場には次期開催地の二戸と、決勝戦を戦い終えた釜石及び県立中央病院A並びに地元岩手郡関係者、御援助いただいた薬問屋関係者が最後に残って表彰式が進行した。宍戸鳳悦県医師会常任理事の戦績発表は、「壇上に揚げられた成績表の如くです。」と簡単に発表され、それぞれ加藤十郎県医師会長

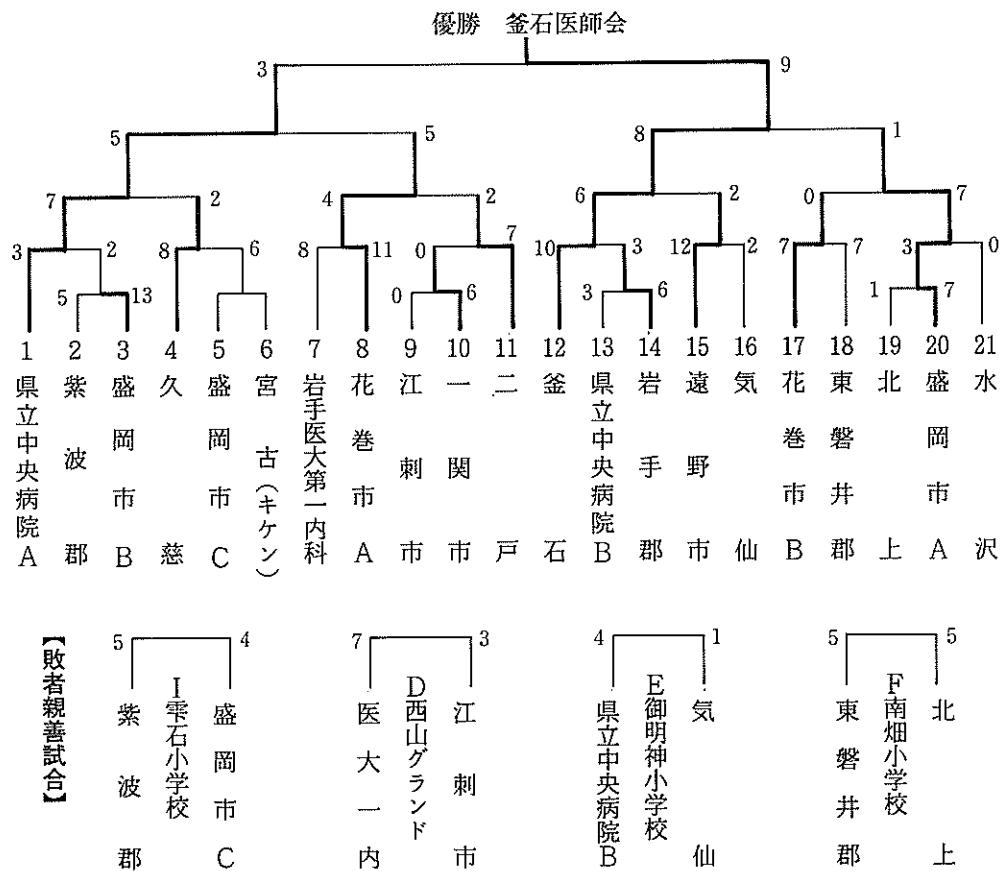
より優勝旗及び優勝楯、賞状を釜石チームへ、準優勝旗及び準優勝楯、賞状を県立中央病院Aチームへと手渡された。

審判長講評は、非常に今大会を振り返って要約されていたので、ここに掲げて最後とします。

年令的な若さ——走力が違うようだ。

好投手あるところに優勝あり。

バッテリーの活躍が目立った。



## 地元での県医師会野球大会開催まで

零石町 高 橋 孝

資金の面では郡医師会で数年前から積立をして準備し、グランドの予約は一年以上も前からで、関係者より驚かれたりました。十数回にも及ぶ理事会並びに実行委員会を経て、大凡その計画はできたが、その後は会長一人で殆どの作業を終えたようにも思われる。薬問屋さん（小田島、サンエス、エーシンの三社）には大変御苦労をおかけ致しました。自賛ではありませんが、皆さんの御協力によりあの大きなイベントがあの様に切れ味良く、きれいに出来た事は、会長をはじめ会員各位も薬問屋さんの努力の賜物と思っております。零石地区の医師団も各自の分担で働いて下さいました。大長老は天気の心配をされて前日も悪天候時のアドバイスをしてくれましたし、長谷川長老は町営グランド迄おいでいただき、色々とお手伝いをいただきました。根本先生は懇親会会場係として選手の皆様の接待係として、杉本、桂両先生は救急係として、上原先生は小学校の鼓笛隊、零石さんさ踊りの交渉から演奏スタート迄、又記録係としてビデオを作ってくれました。篠村先生御兄弟は前日の朝から事務長さんを先頭に各球場のライン引きをして下さいました。更に入場行進の歩く道順の打合わせ等々中学校の先生達と綿

密な打合わせをして下さいました。谷藤先生は本部において一日一杯スコア係として、また受付係として記念品、参加賞の配分等々働いて下さいました。宮沢先生は前日奥様のお母さんが体調をくずされ、新潟においてになりましたが、前日迄グランドを見て歩き、スコアボード、ベース等の確認をしていただきました。ありがとうございました。後始末では最終試合終了後の町営球場の掃除では、今迄誰もした事がない所迄きれいにして大変喜ばれた事を付記しておきます。

「モシモシ（早い口調で）セエンセエ、アナ宮古棄権ダド、困ったな」会長が大分お疲れの様子で、前日になって会長からの電話で同じ内容の事が二度かかって来る様になった。ゲームの手引書作り、二度も三度も現地を回り、案内板の設置場所の確認、グランドの備品確認等々、それはそれはあの小股で早く歩き回り、全てを自分の目で確認して歩き、本当に疲れになってしまった事と思います。最後にボツリ、「久慈医師会のチームに悪かったなあ、宮古医師会の棄権で、盛岡市Cと二回戦で対戦することが急遽決まり、当日久慈を朝早く出て来る先生に悪いなあ」と大変心配し、気にしておられました。会長お疲れだったどうが大成功、万歳！御苦労様でした。



本部前の役員右より高橋(孝)副会長、佐藤副会長、高橋(牧)会長、菅原二戸医師会長（次期開催地）

## “プレーボールまで”

零石町 上原充郎

ドドーン……！8月25日午前8時。一片の雲も無く晴れ渡った零石町営球場の大空に第43回岩手県医師会親睦野球大会の開会を告げる狼煙が鳴り響いた。零石小学校5、6年鼓笛隊170名による「グリーングリーン」の行進曲にあわせ、県内各地より参加の20チームが颯爽と入場行進である。プラカードをもっての先導は零石中学校女生徒による。彼女等は前日に篠村兄・弟両先生と中学校の先生の指導の下、幾度も入場行進の練習をしていた。当日は午前7時30分から整列して選手の入場に協力してくれている。“零石あねっこ”(綱笠、紺絣のこすびりーはんてんのやうなものーに前掛け、黒いもんぺ、朱の帯、青の手甲、白い足袋に朱の緒のぞうり)のいでたちはとても可憐である。一塁側スタンドで待つ参加選手の前方のグラウンドでは午前7時30分より“零石上町さんさ太鼓伝承会約50名による熱のこもった「零石さんさ太鼓と踊り」を皆さんに楽しんでいただいた。選手は川口零石町長や加藤県医師会長、高橋牧之介岩手郡医師会長、佐藤郁郎、高橋孝、上田靖彦郡医師会副会長、次期開催地の菅原光夫二戸医師会長、20名におよぶ審判団等の前を通って堂々の行進である。観客席では大勢の応援団や町内の観客が休むことなく拍手を送っている。関敬一氏による場内アナウンスの歯切れの良い、ユーモアをまじえてのチーム紹介が時々どっと場内を笑わせる。私は8ミリビデオカメラ(旧式の大きな重いやつ)を手に、開会式場のあっちこっちを行ったり来りしていた。ビデオを撮りながら“とうとうここまで来た。”そんな気持ちだった。昨年8月久慈の大会を終えた直後より今日に向けて準備が開始されたのでした。最初はゆるやかだった会

合も、回を重ねるごとに綿密となっていました。特に今回の大会を全面的にバックアップしてくれた小田島、サンエス、エーシンの三社の薬問屋さんとの最後の二回の打ち合わせは本番を想定しての熱の入ったものだった。大会前日(24日)午後1時よりメイン会場に集合した郡医師会員薬問屋さんの活動は大変御苦労なものでした。当日の大会をスムースに大成功にと高橋会長の陣頭指揮の下全員大粒の汗を流して頑張っていた。使用される8球場でのラインを引く者(篠村外科の事務長が頑張ってくれた)、当日の受付時の参加賞やおみやげの確認準備に佐藤(郁)先生、上田先生、谷藤先生、根本先生、篠村(五)先生は汗している。及川先生指揮する各会場の無線連絡の設置とテスト。高橋孝先生は大きな身体に大きな汗を流してスコアボードの点検等頑張っている。24日は大曲市の花火大会のため、国道46号線は昼過ぎより大混雑で少し到着の遅れている先生もいた。佐々木久夫先生、嶋先生、伊藤先生等は「事故でもあったの。全然車が進まないなあ?!」と言いながら到着した。8会場で必要な20ヶの氷水を入れるクーラーを準備する者、会場への誘導看板の確認等大忙しだある。役場職員の志田君も全面的に協力してくれた。本当に皆さん大活躍でした。夜は夜で宿泊しているチームの宿へ歓迎の訪問で高橋会長、佐藤(郁)、高橋(孝)、上田各副会長先生は夜遅くに疲労こんぱいの身体を明日を夢みながら横たえるのでした。

当日朝7時に全員集合し、長谷川先生も馳せ参じ昨日までのではず通りそれぞれの持ち場についた。受付をする者、氷やへ行き氷水を会場へ運ぶ者、無線機を持って会場へ行く者、グラウンドを見回る者、来賓の接待に当た

る者、昼食のおにぎりを各会場へ運ぶ者、皆一生懸命でした。

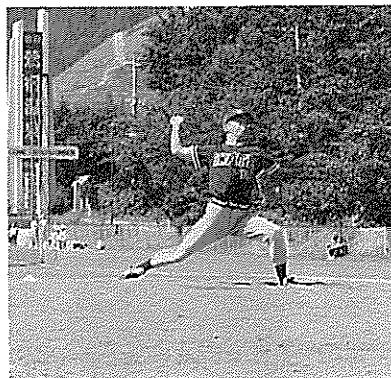
佐藤(郁)先生の落ち着いた開会の辞が朝の澄み渡った空気に凜と響きわたった。君が代の合唱と共に国旗、県医師会旗掲揚、そして鳩の乱舞、加藤十郎先生の大会会長としてのユーモアたっぷりの御挨拶。高橋牧之介先生の大会実行委員長としての、「やったぞ！」という自信に満ちた堂々とした素晴らしい御挨拶。川口民一零石町長も御多忙の中御出席下さり、93年の世界アルペン大会のアピールも含めての歓迎の祝辞。嶋信岩手郡チーム主将による会員の「年齢と心」を思いやる楽しい選手宣誓。世界アルペンスキーコンパニオンと世界アルペン大会マスコットの「ケンタとミミ」による加藤会長への花束の贈呈。永年出場選手表彰は10年選手5名、20年選手6名、25年選手2名、30年選手2名、35年選手5名でそれぞれ晴れの表彰を受けた。菅原光夫二戸医師会長による次期開催地としての抱負と紹介の御挨拶。審判団長の南黒沢実氏による心のこもった？老体をいたわるルール説明。高橋孝先生のこまやかな諸事連絡と、セレモニーは流れるように、厳かに、楽しく、ユーモラスに進み、上田靖彦先生の閉会の辞、鼓笛隊のマーチにのって役員、選手団退場式は終了した。ビデオを記録しながら、よかったです、うまくいった、みんなよく頑張ったなあ……。



懇親会場で「北上夜曲」を熱唱する  
高橋会長（左）と上原先生（右）

と感慨ひとしおでした。

わが岩手郡チームの第1試合は、鳴宿の町営グランドBで午前9時20分、プレーボール！我が岩手郡の相手は県立中央病院Bチーム。先攻だ。早藤先生も応援に駆けつけてくださった。近藤先生は団長として、カメラマンとして、スコアブックの記録と大忙しだ。高橋会長は加藤県医会長と各球場の訪問だ。嶋主将は打っては良し、守っては良しの大活躍。岡田先生は今は県立山田病院へ行った、高橋司先生のおふるの大きなユニホームのため、上半身はアンダーシャツだけで頑張っている。高橋克郎先生は一塁手として本当に良く活躍している。奈良坂捕手の守りは鉄壁だ。三善先生は盛岡市医師会チームでは名投手として活躍された方だ。出番遅しとウォーミングアップしている。今日の西島先生は打点王だ。一塁線ギリギリのタイムリーヒット2本打った。第一試合勝因の原動力だ。今年の土谷投手の投球はコース、スピード、コントロールと最上の出来だ。篠村達雅先生のフィールディングは素晴らしく、佐々木久夫先生、塙谷先生は名コーチャーだ。伊藤先生のファインプレー。根本、坂井両先生は接待のため早々と懇親会場へ向かった。第一試合は楽々の勝利。第二試合は今回優勝した釜石チームと対戦し、惜しくも敗退したがそれでも各選手は第一戦勝利の戦績をサカナに美味しい乾杯すべく懇親



第1戦、2戦とも健投した  
土谷投手

会場へと向かった。昨年の迷投手??筆者は昨年のハードトレーニングによる野球肘が未だ治らず残念ながら今年は裏方に撤した。

表彰式は午後4時近くに始まった。優勝チームの釜石医師会員は皆大喜び。石川育成盛岡市医師会長の“全医師会員が美味しくお酒をのめるように、団結しよう”との音頭で盛大に乾盃が行われ懇親会へと移った。岩手郡医

師会員は選手はもとより、八角先生、佐渡先生、矢追先生、篠村(五)先生、瓜田先生と参加されて、お互いに今日までの労を犒い合っていた。高橋会長は大会運営の大成功に酔い、「北上夜曲」を歌われ大満足の御様子だった。その後と瓜田先生の名司会によるカラオケへと会は盛りあがり、そして閉会式表彰式は盛会のうちに終了した。(完)

### 県医師会親睦野球大会裏方観戦記

零石町 谷 藤 一 生

開会式の小さな主役：大会の数日前、小学5年になる長女が、「お父さん、今度の日曜日、お医者さんの野球があるんでしょ、わたし鼓笛隊で出るよ。」と聞かされ、当日受付係の小生は、上田靖彦先生の補助としてどうにか無事受付を終わらせ、開会式を観ながら(はっきり言ってあまり観ず)鼓笛隊の娘の姿を捜しましたが、とうとう捜すことは出来ずに終わり、家に帰ってから娘に「私、居たの観た?」と聞かれた時は、「ウ、ウーン」としか声が出ませんでした。娘よゴメンネ。

試合開始：野球をほとんど知らず、まったくやらない小生にとっては試合は余り観ず、本部の高橋孝先生と受付と記録の上田靖彦先生の下で、試合結果の記録や雑用係として、時々上田靖彦先生の試合解説を聞きながら、また朝早く起きたための睡魔に襲われながらの一日を過ごしました。しかし、昼に配られたオニギリの美味しかった事、これは疲労を感じた時にこそ味わえる満足感でしょうか。

大会本部の本音：10時半前に岩手郡チーム一回戦快勝の無線連絡が入り、「ヤッタゾー」との喜びとともに選手の先生方には申し訳ございませんが、懇親会場での接待をする先生がいないのではとの心配が出る。その後、またまた二回戦の途中経過の無線連絡が入り、岩手郡チーム3対1でリードとの事で、このま

ま勝ち進んだらどうしようと心配が募る。しかし大会本部の心配が選手の先生方に通じたのか、大会運営のことを考えてと思われる二回戦敗退の無線連絡がはいり、大会本部ホップとする。

試合観戦：今回の試合を観て感じた事は、老いも、若きも、それぞれ野球を楽しみ、かつ年齢に応じた楽しみ方をしているという事です。特にジャンケンでの勝負になった時の選手の先生方のハシャギ様は、まるで子供のジャンケンをみている様でとても清々しく、今、この球場の中は、日常の生活とはまったく別な世界であると感じさせられました。スポーツも年齢に応じた楽しみ方をすれば、いつまでも楽しめるし、老いる事はない。小生は、中学から大学時代まで剣道一筋でやって来ましたが、この時は、勝つことが第一であり楽しむことは二の次でした。これから楽しむ剣道をと思っていた矢先の二年前、剣道でアキレス腱を切断してしまい、これも夢に終わってしまいましたが、現在の唯一の趣味であるゴルフをスコアーを気にせずもう少しやってみようかなと思わせられた野球大会でした。

最後に、高橋牧之介会長をはじめ役員ならびに係員の皆様、本当に御苦劳さまでした。

## 《御礼の挨拶》

平成3年8月27日

各都市医師会長殿

岩手郡医師会

会長 高 橋 牧之介

第43回岩手県医師会親睦野球大会参加御礼について

謹啓時下益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、8月25日は絶好の野球日和に恵まれ、第43回岩手県医師会親睦野球大会を無事終了することができましたこと誠にありがとうございました。各都市医師会より400名におよぶ先生方のご参加を頂き野球を通して親睦の実を挙げることができましたのは、諸先生方のご協力のたまものと衷心より厚くお礼を申し上げます。

なお、準備進行につきましては遺漏なきよう万全を期して相努めましたが、ご不便ご迷惑をかけた事もあるかと拝察いたします。その点につきましてはご容赦いただきたいと存じます。

次年度開催地二戸医師会の第44回大会に元気でお会いすることを期して会員諸先生方のご健勝を祈念し御礼の挨拶といたします。

## 郡医師会理事会兼県医野球大会実行委員会

◆7月13日（土）於県医師会館

午後3時30分より

- 安代町におけるねんりんピック「テニス交流会」について（9月21日～24日まで）
- 県医師会ゴルフ大会（9月29日）参加について

- 県医師会野球大会について  
組合せ抽選など

◆7月27日（土）於篠宿温泉ホテル加賀助

午後4時より

協賛三社（小田島、サンエス、エーシン）  
の係員との打合わせ会

◆ 8月10日（土）於県医師会館

午後3時30分より

協賛三社の係員と郡医師会担当者との役割分担の打合わせ会

◆ 8月21日（水）

於ホテルメトロポリタン盛岡

午後6時30分より

協賛三社代表と郡医師会役員との最終打合わせ会



地元開催で釜石チームにも健斗した  
岩手郡チームと応援団

## 岩手郡医師会理事会

▼日 時 平成3年9月19日(木)午後6時より  
 場 所 岩手県医師会館第3会議室  
 出席者 高橋(牧)、高橋(孝)、上田、佐藤、  
     根本、西島、及川、瓜田、嶋、上原

**報告、連絡事項 :**

1. 第43回岩手県医師会親睦野球大会について
2. 参議院議員宮崎秀樹氏支援活動について
3. 国民健康保険医等の登録権限者の変更
4. 本県の必要病床数の試算
5. 平成3年度県民健康教育講座について
6. 社会保険厚生省共同指導について
7. その他

**行事予定 :**

1. 国民医療危機突破全国医師大会の開催  
H.3.9.27 於東京九段会館
2. 岩手郡学校保健会  
H.3.10.26 於盛岡市上田公民館  
講演会の予定 演者未定

3. 第87回岩手医学会秋季大会  
H.3.11.17 於岩手県医師会館  
救急医療——老人の救急医療  
血液製剤使用の適性化について  
厚生省薬務局血液専門官 奥村二郎  
脳血管障害の治療の現状  
岩手医大脳外科教授 金谷春之
4. 第42回東北・北海道医師会病院臨床検査センター連絡協議会  
H.3.11.23 於盛岡市
5. 第9回岩手県学校保健、学校医大会  
H.4.1.19 於岩手県医師会館
6. 岩手郡医師会講演会兼忘年会  
H.3.11.16 於ホテルメトロポリタン盛岡  
演者未定
7. 第8回岩手県医師会スキー大会  
H.4.1.19 於松尾村東八幡平スキー場
8. その他

### ★最近の話題から

#### 診療報酬緊急是正は年末実施の要求

社会保険中央医療協議会診療側委員の坪井日医常任理事は9月15日の東北医師会連合総会の講演で、診療報酬基本問題小委員会、全員懇談会での審議への日医の取り組み方策を明らかにした。このなかで同常任理事は、診療報酬の緊急是正の必要性を訴え「来年4月とは言わず年末にも」改定を行える方向で、「頻繁に全員懇を開催し、また中長期的問題の審議の場である小委員会も緊急是正が問われた時にはその是非を議論できるよう、彈力性のある委員会とするよう要望する」と語った。また、医療費の財源の捻出方法について、国民医療費全体の20分の1を占める給食費など、アメニティ要素の強い点数については、診療報酬とは別建ての支払い形態を模索する方向を支持し、緊急是正と併せた抜本改革への具体的なアイディアを提示、審議再開への積極対応を鮮明にした。

坪井常任理事は日本の社会保障費全体の中で、人口の高齢化などによって「今後、医療費が大幅に伸びることはあまりない」とし、社会保障費の配分が社会福祉、公衆衛生など、医療以外の部分に高い割合で移行すると予測。こうした中での、医師のサービスのあり方に触れ、「医療費として見なければいけない部分の周辺にある」保健、福祉分野に積極的に進出する必要性を訴え、新しい分野からの、財源を確保できる可能性もあり得るとした。また、給食費、基準給食加算を併せた金額が平成元年度時点で国民医療費の約5%を占めていた事実を例示し、「アメニティ部分に財源を探していくことになる」と語り、医療の周辺サービスにかかった費用は別建てとして「診療報酬の枠から一部はずし」、その余剰分を他の財源に回すことも検討されると予測するなど、長期展望に立った方向性を示した。

ただ、人件費の高騰など社会情勢の変化による医業経営の困窮状態を開拓するため「長期的に凌げない課題は緊急是正を行い、年末にも改正を行う必要がある」と主張し、9月18日からの中医協審議の中で問題提起し、「どの部分で緊急措置が必要なのかを討論する」よう要望するとした。

また、新薬価算定方式の導入経緯に触れ「医師の技術科を適性化することに支払側も認識を持った上での結果である」とし、薬価差依存のない安定経営に向けた診療報酬体系の構築に、中医協各側とも共通の考え方で臨んでいる点を強調した上で、今後の中医協議論に向けた強気の姿勢をアピールした。

## あらほの先生

### 西根町 瓜田外科胃腸科医院の巻

乱文にて院長の横顔を紹介させて頂きます。誕生日は昭和11年10月12日で、天秤座のB型。白髪でお腹は、ボッコリですが、これがお医者さんの風格を更に強調しています。

院長は診察中患者さんに対して、決して笑顔は絶やさず、特にお子さんにはやさしく微笑みかけられます。しかしスタッフに対しては大変厳しく、挨拶や、親切さ等、患者さんへの接し方に気を配られ、至らぬ時等は大目玉です。

恐い院長（診察中は）ですが、宴席となりますと、一転、唄好き、お酒好きの院長は、カラオケ大好きマン。宴もたけなわになります

すと、右手に杯、左手にマイク、逐には踊りも加わり、ワンマンショー。

更にこんな一面も、料理が好きで、残業で遅くなった時等、院長直々の手料理を頂いた事がしばしばありますが、盛り合わせ方のきれいさは、料理本のメニュー写真の様（オーバーかな？）で、とても院長の風ばうからは、想像が出来ない程です。（院長の風ばうは前述の如く、男らしいですから）もちろん味の方は大変結構なものです。

以上ですが、患者さんのためにも、お身体だけには気を付けて下さいます様、スタッフ一同からもお願い致します。



カラオケで熱唱する瓜田先生

## 隨 想

## た ば こ

零石町 高 橋 孝

彼は左手を軽く添えて色良い茶色の部分を右・示、中指を巧みにつかい揉みはじめた。さらに白い肌の所に手がうつり、彼女が燃えるのを待つように、こわさないように、彼女の内を確かめながら揉み続けていた。日本人は一億総病人とも言われ、ビタミン入りのドリンク、アイソトーニックのスポーツドリンク、更には、キュウリに鉢巻きをして繊維のドリンク又はバランス栄養食カロリーメイトなどが発売されている。葛巻町の西島先生も菜園をなさっている様ですが、小生も農家の出身で、夜の定時制高校のために日中は19才迄田舎や畠で家を手伝って來たので、農業では今の若い農家の人は達よりは上手だと自負している。2年前迄は自分でも百坪位の畠を作っていた。市販されている野菜を見て腹が立つ。ホーレン草等フワフワしたどこに茎があるのか解らなく、お湯を通すとペタペタして歯ごたえもなくどこにビタミンがあるのやら繊維があるのやら。私は少し大きくして、花が咲く寸前の少し歯ごたえがあり、茎、葉とも甘味のあるホーレン草がビタミンも繊維も多い様に思う。キュウリも真直でなくとも曲がっていても食べるには違いはなく、無理して農家で矯正してまで真直にしなくても、もっと手をかけずに安価で市場に出すべきだと思う。それでも野菜の中に含まれるビタミン、繊維等にはあまりかわりはない様に思われるが、どうでしょうか。現在の惣菜を普通に食べ、特に発癌を抑えると言う野菜を多く食べていれば、ビタミンも繊維も充分で、ドリンク剤も必要ないと思うがどうでしょうか。オットット本論本論、この様に健康食健康ドリンクなどと言うのとは別に、日本人が百害あって一利もないタバコを吸っているのはどうして

だろうかと思う。周りをみると、医師殿もお吸いになっている方も多い。日本では未だ専売公社でタバコの宣伝はしていますが、アメリカでは禁止されたと聞く、釈迦に説法は重々知りながら、主流煙は自分に、副流煙は他人に発癌等の害がある。それでも禁煙出来ないのは何だろう。色々の事を言っている人がいる。人間は昔から火に係りをもち、焼畑農業、いろいろを囲んでの一家団欒、キャンプファイア等々手に火を持つことの安心感、又タバコに火をつけて数分間で物体を燃やしてしまう、物体を消滅させる快感等、火と煙を我々の手からはなす事の難しさが禁煙の難しさと同じと言う人もいる。又一方冒頭に書いた茶色の部分はフィルターで、乳首を連想し、白い肌の部分はタバコ本体で、煙は乳汁を連想していると言う。乳首を連想させるフィルターに口を当てて、無意識のうちに幼児のときの感触を取り戻し、現在の悩みや緊張感から解放されようとしているとも言う。

禁煙には1自己を甘やかさない。2妥協しない。3口実を作らないこと等々ですが、しかし私も喫煙をいたずらし始めてから30年位吸い、多い時は「いいこい」30本位吸った。上原充郎先生に「先生タバコ止めねスカ、オラ止めたよ」と言われて、それではオレも止めると言って、次の日から止めたが、特に苦しい事も何もなく、只10kg位体重が増えただけだった。これには少々困っているが、禁煙時何も大げさな事は何もしなかった。但し一度禁煙して再度吸いはじめるともう二度と禁煙ができないと言う。前述のようにタバコが女体に例えられるなら年老いてより手を出すと、アレも40馬鹿50馬鹿と言われるよう、止めさせるには骨が折れるとの事。同じかな？

## 編集後記

◆ 今回は、8月25日（日）に岩手郡医師会の担当で行われました第43回岩手県医師会親睦野球大会の模様を特集してみました。

当日は皆さん的文章の中にもあるようにすばらしい天気に恵まれ、開会式の行われた零石町営球場では、特に司会を担当してくれた地元零石町の関敬一氏の歯切れのよい、時にはユーモアを交えた、手慣れた進行でスムースに進み、郡医師会長はじめ郡医師会役員、関係者もこの日ばかりは一段と晴れやかに見え、大会の大成功を喜んでいるかのようでした。事実、最後の決勝戦を終えるまで予定通り進行し、ホテル大観での懇親会、表彰式へと移行できたことは本当に喜ばしいことあります。関係者の皆様、本当に御苦労様でした。

◆ この大会を開催するにあたり地元零石町

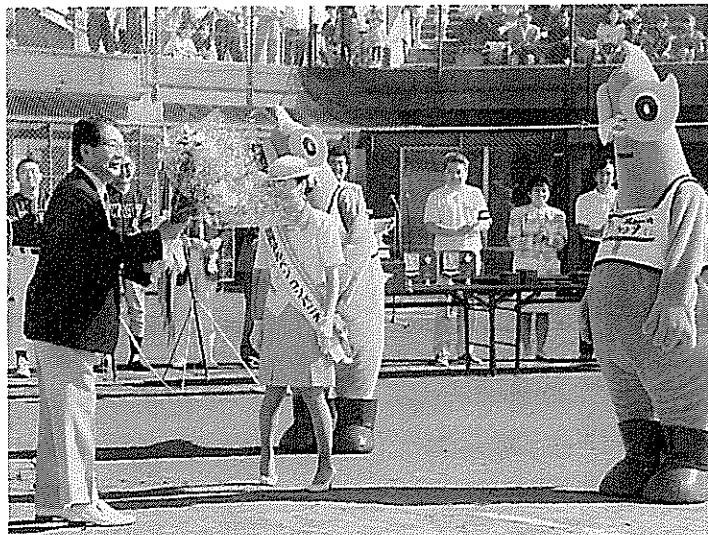
各先生方の御苦労は並大抵のことではなかったことかと想像します。その陰の御苦労話を地元の先生方に寄稿していただきました。

本当にいろいろ御世話になりどうもありがとうございます。また、野球評論家顔負けの観戦記を書いていただいた近藤先生には、毎年毎年頭が下がる思いで一杯です。ありがとうございました。ご協力いただいた各先生方に感謝申し上げます。

◆ 高橋孝先生の随想はますます好評。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

◆ 「おらほの先生」は西根町大更瓜田先生に登場していただきました。一度は従業員の方に拒否されましたが、何とか書いていただきました。どうもありがとうございます。尚、写真はある懇親会場（於ホテル東日本）で熱唱されたときのものです。

(M.S記)



と世界藤  
ンア会  
タル長  
とペ  
ミン花  
ミコ東  
ンを  
パ呈  
ニオす  
ン